

できることから始めよう！ 避難所運営のヒント&実践集

千葉市避難所運営委員会活動事例集



千葉市防災対策課

令和7年3月作成

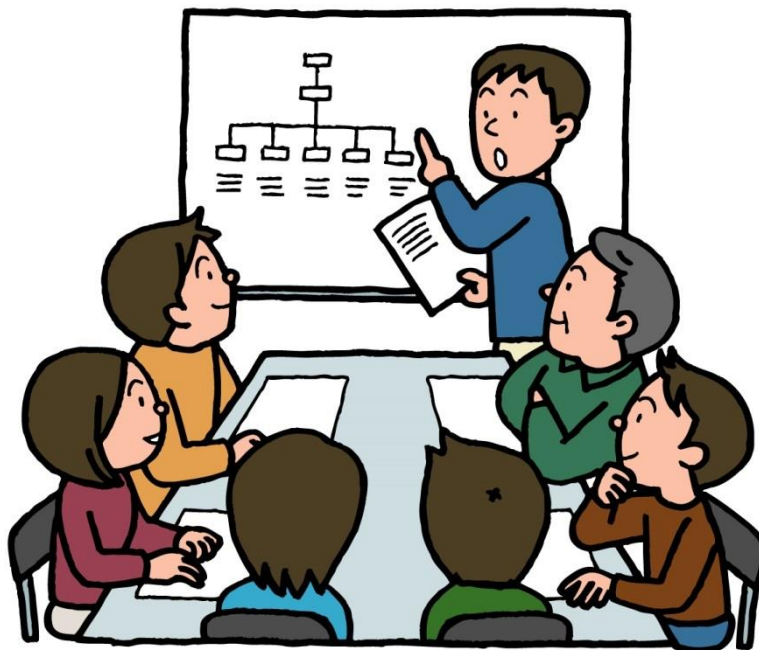
はじめに

千葉市では、地域の皆さまのご理解のもと、全ての指定避難所に避難所運営委員会が組織され、日頃から様々な防災活動に取り組まれています。

避難所運営委員会活動事例集は、平成30年度に作成・配布しましたが、その後、令和元年の風水害や新型コロナウイルス感染症の流行などがあり、各委員会の活動も充実・強化されています。

そこで、この度、あらためて活動事例を収集し、この事例集を取りまとめました。

「どのように活動を進めればよいか」「活動をさらに活性化させたいが、良いアイデアが浮かばない」といったお悩みをお持ちの方々の参考になればと思い、地域で行われている様々な事例を紹介しておりますので、ぜひご活用ください。



目 次

避難所の運営体制を整えよう

【事例1】最低限身に着ける知識の整理	1
【事例2】地区全体での避難所運営協力活動	2
【事例3】ピクトグラムの活用	4
【事例4】ペットホテルと連携した受入訓練	5
【事例5】避難所で赤ちゃんから高齢者まで支援	6

様々な訓練をやってみよう

【コラム】防災アドバイザーを活用しよう	7
【事例6】備蓄食料体験	8
【事例7】HUGの地域版作成	9
【事例8】あんしんケアセンターと協力した訓練	10
【事例9】合同防災訓練の実施	13

活動を広めよう

【事例 10】広報誌の作成	14
【事例 11】複数の避難所運営委員会による防災展示会	15
【事例 12】複数避難所合同のブース出展	16
【事例13】外国人住民へのアプローチ	17

事例 1

最低限身に着ける知識の整理

団体名称 扇田小学校避難所運営委員会

活動内容

扇田小学校避難所運営委員会では、複数年対応している委員が数名いる一方で、1年限りの委員が毎年 15 名弱存在します。そのため、避難所運営委員の複数年定着が難しいことを前提に、避難所運営委員会を「避難所としての最低限の知識を学んでもらう場」として、1年限りの委員の方に、避難所の基本を理解していただくことを目標としています。

【学んでいただくこと(抜粋)】

- ・避難所とは
- ・避難所の役割
- ・避難所開設の条件
- ・避難所の備蓄品
- ・避難所の運営の主役は避難者自身であること
(施設管理者や市の担当職員に頼りきりにならないこと)
- ・避難所は避難者だけではなく地域の支援拠点として機能すること
- ・マンホールトイレの設置訓練(トイレの確保が第一であることから)



ポイント

- 避難所運営委員が頻繁に変わる委員会が多いので、災害時に必要な最低限の知識をまず身に着けることが大切です。
- 避難所運営委員を交替した後も防災の知識を持った地域住民がいることで、地域の防災力向上に繋がります。

地域ではこんな意見が出ました

- ・当避難所は、近隣家屋の構成から在宅避難を前提としながらも、建物の全半壊以外にもインフラの寸断等で、避難所に来る人がいる可能性が理解できた。
- ・避難所に十分な備蓄があるわけではなく、避難者が近隣住民だけではないことを知り、避難所運営の難しさが分かった。
- ・避難所運営委員会を「避難所運営委員会理解者を輩出する学校」と位置づける仕組みは参加しやすい。

事例 2

地区全体での避難所運営協力活動

団体名称①おゆみ野地区避難所運営委員会連絡会

②高洲地区避難所運営委員会(高洲四小、高洲三小、旧高洲二中、
高洲コミュニティセンター、高洲スポーツセンター)

活動内容①

令和 4 年におゆみ野地区にある10か所の避難所運営委員会で、連絡会を組織。

各避難所運営委員会が平常時から繋がりをもち、それぞれの活動内容や避難所の施設、設備等を情報交換し共有することで、災害時の避難所運営に地区全体で協力・連携できるようにしています。

【活動内容】

- ・年2回の全体会議の開催(6月、12月)…活動内容等の情報を共有し、問題点を相談・解決
- ・近隣の委員会で班を編成(全4班)し、開設訓練などを相互に見学
- ・地区町内自治会連絡協議会会長会にて活動報告と取り組み内容の発表



活動内容②

令和 2 年から高洲地区内5箇所の避難所運営委員会で定期的に情報交換を行っています。

避難所運営マニュアルシート式 BOX、運営キット、資機材整備など運営上の工夫や好事例の情報共有を図り、一つの委員会だけでは解決できない課題や解決策を共有しています。

【主な取り組み】

- ・年 3 回の連絡会議の開催
- ・避難所訓練等の相互見学、活動報告
- ・「避難生活と防災」企画展の開催
- ・避難所運営通信など防災減災の情報発信や地域連携

ポイント

- 平常時からお互いの顔を見て関係を築くことで災害時の協力関係を円滑に進めることができます。
- それぞれの訓練を相互に見学することで、優れた点を取り込み、課題の共有を行うことができます。

地域ではこんな意見が出ました

活動内容①

- ・他の委員会の活動内容を知ることができ、良い点を真似し、取り入れることができる。
- ・情報交換と要望を出せる場所としてとても良い。
- ・立ち遅れていたなので、非常に刺激になり、連絡会の活動が有意義である。

活動内容②

- ・避難所運営の初動対応やマニュアルの独自工夫など情報共有ができて参考になった。
- ・開設訓練の相互見学で、各避難所の特性や課題が見え活動のレベルアップになった。
- ・平時から地域で災害時の協力体制や避難所間の連携を話し合うことが大切。

事例3

ピクトグラムの活用

団体名称 旧大宮台小学校避難所運営委員会

活動内容

ピクトグラムによる表示の取り組みについては、東京2020年オリンピック・パラリンピック競技大会をはじめ、最近では避難場所等の表示など、全国的な取り組みとして広がってきています。

旧大宮台小学校避難所運営委員会では、避難所ピクトグラムを作成し、成果物は常設の模擬避難所内において活用しています。

【ピクトグラムのメリット】

文字や言語に依存せず、直感的にその表現内容を理解できます。



ポイント

- ピクトグラムを使用することで、目の見えづらくなった高齢者、漢字が苦手な子ども、外国人、一部の障害者など文字の読めない人にも情報を伝えることができます。補足でルビ・数種の言語表示も記載されています。

地域ではこんな意見が出ました

- ・多様な色覚に配慮するために、現在のものが劣化し新たに作成する際にはモノクロのほうがよいのでは。（現在赤・青・緑などを使用したバージョンも掲示中）
- ・避難所のスペースは流動的に使われる場所もあるので、ホワイトボード用マーカーでフリーに書き込めるタイプのもも含み、追加する場合もパウチ加工にして貼り替えがしやすいものを作成したほうがよい。
- ・作成が可能なものは事前に準備しておくことが重要。

事例 4

ペットホテルと連携した受入訓練

団体名称 檳橋公民館避難所運営委員会

活動内容

檳橋公民館避難所運営委員会では、避難所のスペースが限られており、ペットの避難をどう受け入れるかが課題でした。地域内に新しくペットホテルがオープンし、災害時の一時受入れについて相談したところ、事業者からも「ぜひ協力したいと思っていた」と快諾していただきました。訓練として、飼い主がペットを避難所からペットホテルまで連れて行き、受け入れ・ドッグラン使用までを体験しました。

【ペットホテル】



【ケージ部屋】



【訓練の様子】



ポイント

- 指定避難所以外の場所でも、災害発生時に連携・協力が可能な施設を地域内で探し、訓練に取り入れてみましょう。

地域ではこんな意見が出ました

- ・訓練で施設内を確認・体験できてよかった。安心した。
- ・実際体験してみて、災害時以外でも預けることを考えてもよいと思った。
- ・24時間受け入れ可能なペットの預け先があるとわかっていれば、ペットがいる人もそうでない人も安心できる。
- ・環境が始めから整っている施設なので、準備がいらない。

事例5

避難所で赤ちゃんから高齢者まで支援

団体名称 千城台みらい小学校避難所運営委員会

活動内容

千城台みらい小学校避難所運営委員会では、避難所におけるプライバシー保護と感染症予防の観点から、間仕切りの導入を検討しました。災害時に体育館での共同生活が避けられない中、プライバシーがない生活は避難者にとって大きなストレスとなるため、赤ちゃんから高齢者までの各世帯が一定の間隔を確保できるよう、簡易間仕切りを購入することにしました。購入にあたっては、できるだけ多くの間仕切りを確保するため、安価でありながら、一定程度(完全な密閉ではない)のプライバシーが守れるものを選定しました。

【購入と訓練】

令和6年度には3セットの間仕切りを購入し、避難所開設運営訓練で組み立て設置を行いました。組み立ては簡単にできましたが、強風などでずれる可能性があり、固定方法の改善が必要です。

現在の3セットでは数が足りないため、毎年追加購入を検討しています。なお、間仕切りの床にはブルーシートを敷き、直接床に寝てもらうことになるため衛生面(チリ埃を避ける)を考慮し、避難者が快適に休めるよう段ボールベッドの購入も検討しています。



【写真】大学産業(株)カタログより引用

ポイント

- 赤ちゃんから高齢者まで老若男女問わず、幅広く活用できること
- プライバシー保護、感染症予防(ある程度の間隔をとる)に役立つこと

地域ではこんな意見が出ました

- ・組み立てはとても簡単で、数分で組み立てることができました。
- ・間仕切りの固定方法(強い風等でずれる)など、課題も見つかりました。
- ・絶対数としてまだまだ足りないので、毎年購入していきたい。

防災アドバイザーを活用しよう！

～避難所運営の心強い相談役～



防災アドバイザーとは？

千葉市防災アドバイザー名簿に登録され、地域の防災活動を行う避難所運営委員会等に対し、自らの防災に関する知識・技術・経験等に基づき、指導や助言を行っていただける方です

こんな時に相談！

- ・マンホールトイレの訓練を実施したい
- ・HUG(避難所運営ゲーム)をやりたいので、指導してほしいなど

利用のポイント

- ・同一団体への派遣は年度内 3 回まで
 - ・専門家ではないため、対応範囲には限りがあります
 - ・利用料金はかかりません
- ※アドバイザーには、市から謝礼が支払われます

お申込み・お問い合わせ

アドバイザーの活用を検討される方は、各区役所
地域づくり支援課までご相談ください

中央区地域づくり支援課 TEL:043-221-2169

花見川区地域づくり支援課 TEL:043-275-6224

稲毛区地域づくり支援課 TEL:043-284-6107

若葉区地域づくり支援課 TEL:043-233-8124

緑区地域づくり支援課 TEL:043-292-8107

美浜区地域づくり支援課 TEL:043-270-3124

事例 6

備蓄食料体験

団体名称 黒砂公民館避難所運営委員会

活動内容

避難所開設・運営訓練にて、開設訓練や運営訓練のほかに、実際の防災備蓄品を用い、アレンジ方法やその試食など、災害時の食事についてわかりやすく、そして実践的な内容を交えて紹介しています。

【使用食材】

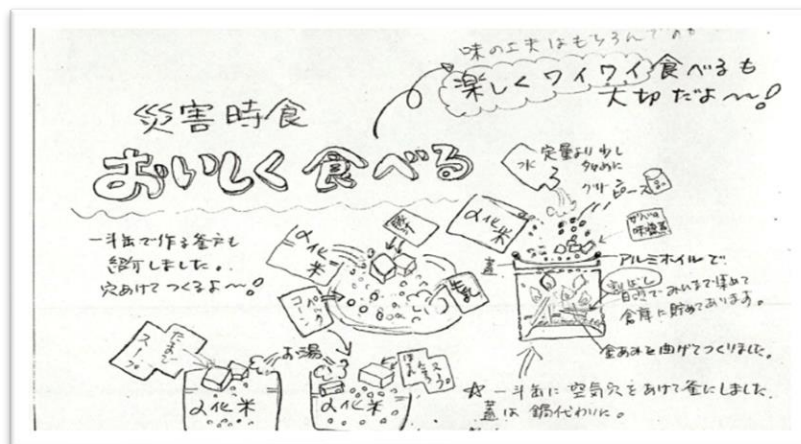
アルファ米、スープの素(たまご、ほうれん草、豚汁)、缶詰(サバの味噌煮、コーン、グリーンピース)、牛乳



【その他用意したもの】

避難所に備蓄されている耐熱袋、ポータブルストーブ、紙皿、割り箸、計量カップなど、限られた器具で実施可能なものを選定。

【作り方】



ポイント

- 非常食にアレンジを加えることで、よりおいしく食べられる方法を見つけることができます。
- 訓練時に実際に作り紹介することで、訓練参加者が自身で実践しやすくなります。

地域ではこんな意見が出ました

・少し工夫するだけで、非常食をおいしく食べられることがわかりました。

事例7

HUGの地域版作成

団体名称 扇田小学校避難所運営委員会

活動内容

1年限りの委員の方にも、避難所の基本を理解していただく取り組みの1つに HUG を取り入れています。HUGの内容に、地域特性を反映し、「水道、ガス、電気等のインフラの遮断」や「高層マンション・中低層マンションの存在」を考慮したカードを作成しました。在宅避難の必要性をイメージしやすいよう、参考資料として利用しています。

～HUG とは～

避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲーム。

【追加イベント例】

学園さん 世帯番号【70】 プラザ低層 X-1

名前 学園さん

年齢

建物状況 問題なし

家族構成 4人家族

トピックス

【イベント】在宅避難をしていますが水が出ません。飲料水を確保したいのですがペットボトルで配給お願いできますか？

千葉さん 世帯番号【74】 プラザ高層 Y-1

名前 千葉さん

年齢 【高齢】

建物状況 問題なし

家族構成 2人家族

トピックス

【イベント】〈伝言〉在宅避難をしています。停電で水が出ません。足が不自由です。エレベータが動かなくなり避難もできません。物資の配給（配達）をお願いできませんか

ポイント

- HUG は手軽に避難所の運営を模擬体験することができますが、地域特性を考慮することでより実践的な取り組みになります。

地域ではこんな意見が出ました

- ・自分たちの地域環境に合わせた HUG は、避難所の理解とともに実際にどのような問題が発生するのか理解しやすくなります。
- ・継続的な取り組みにより、地域防災共助力にも期待が持てます。

事例 8

あんしんケアセンターと協力した訓練

団体名称 穴川コミュニティセンター避難所運営委員会

活動内容

穴川コミュニティセンター避難所開設・運営訓練実施の際に、あんしんケアセンター小仲台と同避難所運営委員会救護・衛生班の合同企画として、避難所での健康管理や要救護者が出た場合の応急処置について、実演を交えた講義を行いました。

【体位管理・応急処置訓練の様子】



ポイント

- 実演している様子を見ながら解説を聞くことで、実際の動きのイメージがしやすくなります。
- 地域の福祉機関との連携で、災害時に支援が必要な住民が安心して避難生活を送れる体制が整います。

地域ではこんな意見が出ました

- ・あんしんケアセンターの方による話は、専門的で参考になりました。
- ・実演を交えての講義だったのでわかりやすく、家庭で実践してみようと思いました。

2024年8月25日

穴川CC避難所開設・運営訓練 健康ミニ講座

避難所生活で出来る健康管理

千葉市あんしんケアセンター小仲台

避難所での生活は、

- 動き回ることが不自由
- 今まで自分で行っていた掃除や炊事、買い物などが出来ない
- ボランティアさん達の手厚いサポートで動く必要がない
- 心身の疲労がたまる
- ●家庭での役割や人との付き合いの範囲が狭くなりがち
などなど

⇒生活が不活発になりやすい状況にあります。

特に高齢な方や持病のある方はこのような状況を起こしやすく、悪循環となりやすい(フレイル)ため、早期の対応が大事です。みなさんも避難所生活を送る際は、以下のポイントを意識してお過ごしください。

フレイル予防のポイント

- ①毎日の生活の中で活発に動くようにしましょう。
(避難所でも横になってばかりではなく、なるべく座りましょう)
- ②動きやすいように、身の回りを片付けておきましょう。
- ③歩きにくくなっても、杖などで工夫してなるべく自分の足で歩きましょう。
- ④避難所でも楽しみや役割を持ちましょう。
- ⑤「安静第一」「無理は禁物」と思いこまない。
(病気の際は、どの程度動いて良いか医師に相談を)
- ※周囲の方も一緒に工夫していきましょう。
- ※ボランティアさんも必要以上に手助けしすぎないようにし、対応に困ったら周りのスタッフとも相談しましょう。

みんなで学ぶ！体位管理

災害時に負傷した人が適切な体位を維持することは、呼吸や血液循環を確保し、症状の悪化を防ぐ上で重要です。

傷病者が最も楽だと感じる体位を確保し、安静を保ちましょう。

注意

基本的には救命処置が最優先ですが、意識がない場合は救急隊や医療従事者の指示に従いましょう。

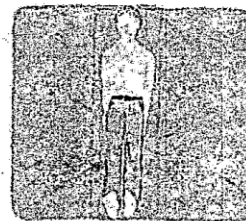
1. 衣服を緩める

- 傷病者にとって楽な姿勢をとらせ、衣服やベルトなどをゆるめる。衣服は、傷病者に動揺を与えないように、できるだけ安静にしてゆるめる。
- 傷病者に意識がある場合は、よく説明をし、希望を聞きながら衣服をゆるめ、無理強いしない。



2. 保温に努める

- 悪寒、体温の低下、顔面蒼白、ショック症状などが見られる場合は、傷病者の体温が逃げないように毛布などで保温する。
- 電気毛布、湯タンポ、アンカなどで傷病者を暖めることは、医師から指示を受けたとき以外はしてはいけない。
- 地面やコンクリートの床などに寝かせるときの保温は、身体の上に掛ける物より、下に敷く物を厚くする。
- 熱中症を除き、季節に関係なく実施する。
- 保温をすることによって、圧迫感を与えないように注意する。
- 服がぬれているときは、脱がせてから保温をするようにする。



事例 9

「合同防災訓練」の実施

団体名称 扇田小学校避難所運営委員会

活動内容

各町内自治会、マンション管理組合等が集まって避難所運営委員会を構成しているため、2～3年に1回程度の割合で合同の「防災訓練」を実施しています。

近年、残念ながら防災訓練への参加者数が減少していることもあり、各団体の役員も防災訓練実施の必要性を感じながらも、実施に前向きになり切れない現状があります。そのため、合同で行うことで参加者数を確保し、参加者と実施役員側の士気を高める効果を期待しています。

避難所開設訓練の一部も取り込みながら、避難所となる小学校のレイアウトなどにも慣れてもらう効果や交流の少ない地域同士の合同イベントという交流の場の提供を含めて行っています。



ポイント

- 気軽に参加できる活動を通じて、災害時に備えた地域の協力体制を強化できます。

地域ではこんな意見が出ました

- ・実施準備の手間が各団体に分散されることもあり、効率的。また、昨今の訓練参加者減少の面からも、一定の規模感が保てるので活気づきます。
- ・合同開催によって、他の地域の訓練内容を学び、自分たちの地域に必要な備えについて再認識する機会になった。

事例10

広報誌の作成

団体名称 穴川コミュニティセンター避難所運営委員会

活動内容

独自に広報誌「避難所だより(A4両面綴り程度)」を作り、町内で配付、回覧し、有事の際の避難所運営・防災意識への啓発を図っています。また、避難所開設・運営訓練時にアンケートを取り、結果を広報誌に記載しています。

穴川コミュニティセンター 避難所運営委員会 避難所だより

避難所開設・
運営訓練報告号
広報誌No.3
2024年10月

令和6年度避難所開設・運営訓練実施

8月25日(日)9:30～穴川コミュニティセンターにて避難所開設・運営訓練を実施しました。
今回は稲毛区重点会場となり近隣の避難所運営委員も参加し総勢約120名の参加・協力をいただきました。



～避難所はすぐには入れません・・・なぜ？～

発災から避難所が開くまで、初めに施設の周囲や内部の安全点検をして避難所として開設できるかを判断します。安全が確認されたら体調にあわせて体育館・大広間・多目的室といった避難居住区へ避難者を誘導します。その際、避難者には「避難者カード」を記入してもらいます。ここまですべて開設訓練とし毎年重ねて訓練しています。今回は「トイレが使えない」という想定で開設しました。上の写真二枚目右のように案内の貼紙をし実際にコミュニティセンター協力のもとトイレを封鎖しました。衛生面の問題は災害時必ず起こりうること避難者が多いほど皆で理解・協力していただくなくてはなりません。



写真左：傷病者用居住区として大広間を使用
中央：大広間の誘導路
右：参加者には実際に避難者カードを記入してもらいました。

参加者から町会役員に傷病者役をお願いし車椅子での移動、居住区分への移動してもらいました。今回はボランティアも募り実際に委員と一緒に施設点検等作業を手伝ってもらいました。

運営訓練は裏面へつづく

参加者の声

9月29日(日)第5回避難所運営委員会が開かれ今年度の避難所開設・運営訓練の反省会が行われました。本会議では訓練当日に参加者に記入いただいたアンケートより参加者からの声が紹介されました。その一部を公開します。

受付では、細かい役割分担も決められていて、誘導の声かけがスムーズだったけれど、会場の案内図や、スケジュール、訓練内容をあらかじめ知りたい。開始時間までの有意義な過ごし方に工夫が必要。

訓練会場での案内図【位置図】を掲示してあれば、訓練内容が分かり易い。何の説明かわかれば優先的に行ってミニ教室を聴講できる。

ミニ教室では、ゆっくり話をしてもらおうとわかりやすい。質問時間も設けてもらいたい。展示物も参考になった。

ポスター等については読んでいない人が多いので、別な方法でスライドとかビデオを使用したらどうか。

2階のトイレの使用不可の連絡はあったが、代替案の提示がなかったので提示があればもっと良かったと思います。

体育館での簡易トイレや段ボールベッド体験ができて良かったが、暑さ対策も欲しい。聞き取りにくいので施設にあった方法の検討をお願いしたい。

聴覚障害者や体育館での誘導等の声が聞こえないので、内容をホワイトボードに書いてあると行動しやすかった。

ペットを連れて行く訓練もあると有難いです。

毎年訓練を重ねていますがまだまだ課題があることを認識しました。
訓練参加の折にはアンケートにご一筆いただくことで課題を見出すことができます。有事の際は委員会のみならず避難者であるご自身も一緒に考え助け合える避難所にしていきましょう。
来年も訓練は行います。ぜひ参加してみてください。

最後まで読んでいただきありがとうございました

ポイント

- 視覚的にインパクトがあり、簡潔かつわかりやすい情報提供ができます。
- 訓練結果や住民の意見を広報誌に記載することで、訓練を単なる1回限りのイベントとして終わらせないことができます。

地域ではこんな意見が出ました

- ・このようなたよりがあることで、防災意識向上につながると思います。
- ・次回は参加したいと思いました。

事例 1 1

複数の避難所運営委員会による防災展示会

団体名称 高洲地区避難所運営委員会(高洲四小、高洲三小、旧高洲二中、高洲コミュニティセンター、高洲スポーツセンター)

活動内容

パネルや実際の防災用品などを用いて企画展を行い、在宅避難を含む避難行動に役立つ情報、避難所生活の具体的事例や相互協力など防災・減災についての情報発信を行っています。

避難所運営委員会だけではなく多くの方に、避難所生活の実態や日頃の備えの重要性を伝えるために、独自にわかりやすいポップアップや映像資料なども用いて展示をしています。地区の複数の避難所で合同で行うことで連携を深め、負担を分散させることもできています。



ポイント

- 複数の避難所運営委員会で行うことで、負担が少なく行うことができます。また、避難所運営委員会同士の情報共有も積極的に行いましょう。
- 市から防災パネル、避難所開設・運営動画のDVDの貸し出しを行っていますので、必要に応じて活用してください。

地域ではこんな意見が出ました

- ・災害時のトイレ対策などの備えについて、展示会での実例が参考になりました。
- ・避難所での助け合いや、高齢者・女性への配慮の重要性を改めて認識できた。

事例12

複数避難所合同のブース出展

団体名称 星久喜中学校避難所運営委員会、星久喜小学校避難所運営委員会、
青葉の森芸術文化ホール避難所運営委員会

活動内容

星久喜地区のイベントである「星久喜フェスティバル」に3委員会が合同で避難所ブースを出展し、防災イベントを実施しました。

特に星久喜中学校避難所運営委員会は星久喜公民館、都市緑化植物園を含んでおり、公民館には風水害時に地区外の方が避難してくることが想定されます。地区外や町内自治会以外の方が避難者となる可能性を認識し、広く3委員会で連携して活動の幅を広げていくことを目標にしています。



ポイント

- 3つの委員会が協力することで、活動の範囲を広げ、より多くの住民や団体と連携し、防災ネットワークを強化できます。
- 地域住民が集まるイベントに出展することで、避難所運営委員会のことを知らない人たちにも、避難所に関することや備蓄の重要性などをアピールしています。

地域ではこんな意見が出ました

- ・大人だけでなく、子どもも興味を持って参加してくれてよかったと思います。
- ・運営側は苦勞もあるが、これからも継続していきたい。

事例 13

外国人住民へのアプローチ

団体名称 蘇我コミュニティセンター避難所運営委員会

活動内容

外国人の住民が多い地域であることを考慮し、災害時の外国人住民への対応をスムーズに行うための取組みを始めています。

【取り組み内容】

- ・避難所運営委員会の組織の中に「外国人支援班」を設置し、災害時に外国人住民への支援ができるよう体制づくりを進めています。
- ・訓練の際に近隣の外国人学生が多く通う専門学校に声をかけるなどして、避難所開設訓練に参加してもらっています。



ポイント

- 外国人住民の方にも避難所開設訓練に参加してもらうことで、災害時の避難所運営をよりスムーズに行うことにつながると同時に、外国人住民の方にも日頃の防災意識を高めてもらう効果が期待できます。

地域ではこんな意見が出ました

- ・生活習慣などの違いなどから、外国人住民の方の受け入れ方がわからず、不安を抱く方もいますが、災害時には国籍を問わず被災し、外国人の方へもサポートが必要であることを丁寧に説明しています。
- ・訓練に参加した外国人の方からは、「次回も参加したい」など概ね良い反応が得られました。

おわりに

本事例集では、数ある避難所運営委員会のうち、一部の活動事例を紹介しています。参考になる活動は、地域の特性に合わせてアレンジしながら、皆さまの活動にも積極的に取り込んでください。

今後も、皆さまの参考となるような先進的な事例があれば、千葉市ホームページ等で公開していきますので、情報提供をいただくようお願いします。

また、千葉市では、避難所運営委員会が行う自主的な活動を支援するため、1 避難所あたり1年度 50,000 円を上限として、補助金を交付しています。避難所運営の体制作りを進めるために、ぜひご活用ください



さらに、避難所運営委員会活動の基本的事項をまとめた、避難所開設・運営マニュアル(例)や、マニュアルをわかりやすく解説した動画、避難所に備蓄している資機材の使い方を説明する動画をホームページで公開しています。「何から始めればよいか分からない」「停滞している活動を底上げしたい」などと感じる方は、ぜひご覧ください。

避難所開設・ 運営マニュアル	本編(避難所開設・ 運営の流れ)	ダイジェスト版・ インタビュー	備蓄資機材の 取扱説明
			

問い合わせ先

【補助金申請窓口】

中央区地域づくり支援課

TEL: 043-221-2169

Mail: kurashianshin.CHU@city.chiba.lg.jp

花見川区地域づくり支援課

TEL: 043-275-6224

Mail: chiikizukuri.HAN@city.chiba.lg.jp

稲毛区地域づくり支援課

TEL: 043-284-6107

Mail: chiikizukuri.INA@city.chiba.lg.jp

若葉区地域づくり支援課

TEL: 043-233-8124

Mail: chiikizukuri.WAK@city.chiba.lg.jp

緑区地域づくり支援課

TEL: 043-292-8107

Mail: chiikizukuri.MID@city.chiba.lg.jp

美浜区地域づくり支援課

TEL: 043-270-3124

Mail: chiikizukuri.MIH@city.chiba.lg.jp

【本事例集及びその他避難所運営委員会に関すること】

防災対策課 地域防災力向上班

TEL: 043-245-5113

Mail: bosaitaisaku.POCR@city.chiba.lg.jp